

北海道環境基本計画[第3次計画](部会案)に対する企画部会委員意見等
(令和2年10月8日企画部会での意見及びその後の追加意見)

頁番号	項目等	意見概要	対応方針
1	2 第1章 1(3)	「2050年頃」が適切。パリ協定、ポスト2020生物多様性枠組も長期目標を2050年においている。	部会案のとおり「2050年頃」とする。次の計画の長期目標についてはその時に改めて議論する。
2		「2050年頃」が適切。環境モデル都市の計画など現場の自治体の計画と整合が取れる。	
3		第3次計画はそれでいいが、10年後の次の計画ではそうはいかないと思われ、国際的な状況や国の計画も踏まえ、またその時に議論する必要がある。	
4	15 第1章 4(2)	北海道らしい地域循環共生圏を示すため、道の気候課で作成したと思われる図を載せてはどうか。	当該図はたたき台で今後のブラッシュアップが必要なためオーソライズされている環境省の図を使用した。
5		地域循環共生圏について現時点ではこれ以上書けないのではないか。	
6		環境省の補助事業で選ばれている事例を表にして記載してはどうか。	
7		これから作っていくものなのでそのことが読み取れればいい。	
8		地域循環共生圏の記載について特に違和感を感じない。	
9		北海道らしい地域循環共生圏のブラッシュアップが必要でまた別の場かもしれないが今後議論を進めてほしい。	
10		地域循環共生圏について用語解説を入れてそこで道内の取組事例を書いてはどうか。	
11	16 他 第1章 4(2) 他	「低炭素型ライフスタイル」の低炭素が残っている一方で脱炭素という記載もありその整合を図っていくということか。	温室効果ガス排出量の実質ゼロを目指すこととしているが、文言については地球温暖化対策推進計画と最終的に整合がとれるよう調整する。次の親会での答申審議の際にはその旨の附帯意見を付けることを検討する。
12	16 他 第1章 4(2) 他	「脱炭素社会を実現していく」と記載があるが、森林吸収量を加味したものでライフスタイルは低炭素型でも森林吸収で最終的に脱炭素になると理解していいか。	
13	16 他 第1章 4(2) 他	札幌市でも気候変動対策行動計画策定について脱炭素の方向で進んでいるようなので、(低炭素ではなく)脱炭素としないと話がおかしくなるのではないか。	
14	60 第2章 3	環境施策の中でこれだけのSDGsのゴールを目指していることがわかるのでいいと思う。	P21の関連記載箇所「各分野の施策の推進を通じて、関連するSDGsのゴールの達成に貢献することができる」旨追記することを検討する。SDGsの観点からの点検・評価については実施段階で具体的に議論する。
15	60 第2章 3	基本計画の進捗をSDGsの観点からも評価していくことになるので第3章にもSDGsの記載があってもいいのでは。	
16	60 第2章 3	SDGs推進ビジョンの点検との連動について記載しなくていいのか。	
17	60 第2章 3	環境基本計画を進めることがSDGsの達成にも貢献することを書いてはどうか。	
18	60 第2章 3	P21の分野別の施策の展開のところで環境基本計画とSDGsの関係を書いてはどうか。	

	頁番号	項目等	意見概要	対応方針
19	7 他	第1章 2(3)	環境配慮行動をする人の意識が下がっている事実を書いてあるだけで課題が分析しきれていないのでは。環境教育へのアクセスについても環境団体を増やすことや支援について触れてもいいのでは。	道民意識調査結果については個別計画である環境教育等行動計画に係る環境教育懇談会で分析することとしており結果が出ていないため部会案のとおりとする(H18の調査結果については質問の選択肢が一部異なるため掲載しない)。環境教育へのアクセスについては意見を踏まえて記載の追加を検討する。
20	7 他	第1章 2(3)	意識調査は同じ質問を定期的に行っているものか。同じ質問で継続的にやった方がいい。平成25年度は大震災の後なのでその影響があったかもしれない。	
21	7 他	第1章 2(3)	平成25年度は特殊かもしれない。平成18年度のデータから書いた方がいいかもしれない。	
22	10 22 他	第1章3 第2章2(3)	生物多様性の損失について地球環境の保全で触れるべきでは。地球規模での生物多様性の劣化についてP10で書くべきでは。指標群について生物多様性の観点の指標が入っていないので入れるべきでは。	P10の関連記載箇所に「地球規模での生物多様性の損失」について追記することを検討する(「地球環境の保全」については施策体系として地球温暖化対策を柱としていることから部会案のとおりとする)。指標群については個別計画である生物多様性保全計画に他に適当な指標がないことから部会案のとおりとする。
23	10 37	第1章3 第2章2(3)	観光客の餌やりなど人と動物との距離が近いことがかえって動物を危険にさらす視点も必要。P37に湿原の記載があるが、大量の炭素を貯蔵しており、湿地を保存することが地球温暖化防止に資する視点についても触れてほしい。	P10ページの関連記載箇所に「観光客の餌やりなどにより野生動物と人の距離が近くなる」旨追記することを検討する。
24	—	—	エキノコックス対策については関係しないのか。道の他の計画に記載されているのか。	
25	—	—	コロナウィルスの感染もそうだが、全体として野生生物や自然環境との人間との距離の問題があり、そのことを前段で書けるといいのではないか。	
26	10	第1章3	課題認識として自然環境のところに人と野生生物との距離の問題を書けるといい。	
27	10 24	第1章3 第2章2(3)	太陽光パネルで湿地などの貴重な自然環境が開発されていることも記載してはどうか。	関連記載箇所に「豊かな自然環境が損なわれる」旨追記することを検討する。
28	32	第2章2(3)	廃棄物関係の指標で最終処分量の目標が他と比べて厳しいのでは。	個別計画である循環型社会形成推進基本計画に記載されている数値であるため部会案のとおりとする。
29	11 29	第1章4(1) 第2章2(3)	めざす姿に「ごみの分別をしっかりする」ことも記載してほしい。記載順は3Rの順番に整合するようにしてほしい。	意見を踏まえて追記を検討する。

	頁番号	項目等	意見概要	対応方針
30	14	第1章4(2)	<p>「持続可能な生活をめざす」の文章がわかりづらいので次のとおり修正してはどうか。</p> <p>「私たちは、これまで物の豊かさを求めるあまり～心の豊かさが感じられる質の高い生活を目指していく取り組みを進めています。こうして人の価値観が物質的な豊かさから心の豊かさへと変化する中～持続可能なライフスタイルと消費への転換も注目されています。</p> <p>しかしながら、気候変動や人口減少による影響は～地域自体の存続が危ぶまれるといった形で表れつつあることから、地球規模で人や物が移動し消費行動が営まれている中で～持続可能な北海道を実現するためには、地球規模で考え行動することが求められます。</p> <p>具体的には、地域循環共生圏に象徴される、地域の強みである農林水産資源等を基盤とした自立的な生活のしくみを構築することにより、持続可能な消費行動への転換や、温室効果ガスの排出抑制をすることで、道外や海外への資源依存や、気候変動など地球規模での環境リスクを回避することが必要となります。</p> <p>また～重要です。」</p> <p>※一部接続詞を換えて記載順を入れ替える修正内容</p>	意見を踏まえて修正を検討する。
31	5 他	第1章2(1) 他	一文が長く読みにくい箇所があるなど、表現に工夫が必要な箇所がいくつかある。また、後段で注釈がある用語について本文内に略語を入れるようにしてはどうか。	意見を踏まえて修正を検討する。用語については適当な略語がなく、本文の記載が長くなるため部会案のとおりとする。